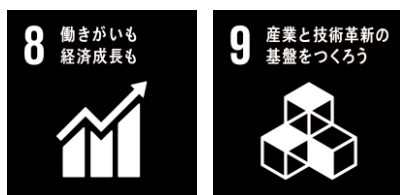


刈谷市政記者クラブ同時



本事業は、SDGsの「8 働きがいも経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」に資する取組です。

2023年1月13日(金)

あいち産業科学技術総合センター
産業技術センター総合技術支援・人材育成室

担当 菅野、堀場、大西

ダイヤルイン 0566-45-5640

愛知県経済産業局産業部産業科学技術課
管理・調整グループ

担当 小林、田中

内線 3389、3388

ダイヤルイン 052-954-6347

中小企業のための「IoT実装技術研修」の 参加者を募集します

モノとモノをインターネットでつなぐIoT(Internet of Things)は、自動車産業を始め、多くの製造現場に広がってきています。IoTによって機械設備のコントロールや在庫の見える化などができるため、生産性向上やコスト削減を図ることが可能になります。IoT普及の大きな波にどう対応するか、またどのように活用するかが、今後の中小企業の経営に大きな影響を及ぼします。

そこで、あいち産業科学技術総合センター産業技術センター(刈谷市。以下「センター」という。)では、中小企業のための「IoT実装技術研修」(2日間)を開催します。研修では、安価なIoT機器を利用したセンサーデータの収集やデータ分析を実際に体験していただきます。

参加費は無料です。多くの皆様の御参加をお待ちしています。

1 日時

2023年2月6日(月)、2月7日(火) 両日午前9時20分から午後5時まで
(受付開始：午前9時)

2 場所

あいち産業科学技術総合センター産業技術センター 1階 講堂
刈谷市恩田町1丁目157番地1 電話：0566-45-5640(ダイヤルイン)

3 内容

IoTの概要から、^{ラズベリーパイ}Raspberry Pi^{*1}などの実機を用いたデータ収集、サーバ上へのデータ送信方法を学びます。また、蓄積したデータの分析方法・評価方法を学びます。

- (1) IoTとRaspberry Piの概要
- (2) Raspberry Piのセットアップ
- (3) 分析手法と評価
- (4) データの準備
- (5) データ利活用に向けた計画

講師：株式会社富士通ラーニングメディア

人材育成サービス事業部

しもかわ ゆかし
下川 由加志 氏(2月6日)

すずき しおり
鈴木 詩織 氏(2月7日)

4 対象

IoTの導入を検討しており、かつ、過去にセンターで実施したIoT実装技術研修を受講していない県内中小企業の実務担当者。

※研修は、2日間とも参加できる方のみ参加可能です。

※同一企業からの参加を1名とします。

5 定員

9名(申込先着順)

6 参加費

無料

7 申込方法

メールでお申込みください。

件名を「IoT実装技術研修参加希望」とし、会社名、所属、氏名、会社住所、電話番号、メールアドレスを御記入の上、「9 申込み・問合せ先」までお送りください。申込後にセンターから確認メールを送信します。

8 申込期限

2023年1月27日(金) 午後5時

申込期限前でも定員になり次第締め切ります。その際はセンターのWebページでお知らせします。参加決定者には、申込期限後にメールで受講証を送ります。

<https://www.aichi-inst.jp/sangyou/other/seminar/>

9 申込み・問合せ先

あいち産業科学技術総合センター産業技術センター
総合技術支援・人材育成室(担当 菅野、堀場、大西)
刈谷市恩田町一丁目157番地1
電話：0566-45-5640(ダイヤルイン)
メール：cts-hrd@aichi-inst.jp

10 主催

あいち産業科学技術総合センター産業技術センター、愛知工研協会

11 新型コロナウイルス感染防止対策

- ・発熱等(37.5℃以上)の症状がある方、又は体調が優れない方は、参加をお控えください。なお、明らかに体調不良等と認められる場合には、参加をお断りする場合があります。
- ・会場は、参加者同士の距離を十分に確保し、定期的に換気をします。
- ・手洗いやマスク着用にご協力をお願いします。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、開催方法の変更や開催を中止とする場合があります。その際は、あいち産業科学技術総合センター産業技術センターのWebページでお知らせします。

<https://www.aichi-inst.jp/sangyou/>

【用語説明】

※1 Raspberry Pi

イギリスのラズベリーパイ財団によって開発されている名刺サイズのコンピュータ。元々は教育用途であったが、安価に入手できる高性能なIoT機器として、個人利用に留まらず、企業が業務の効率化やIoT化に活用することも多くなってきた。